



『日本一の建設会社に成る』

常にこの目標を念頭に置いてる。

「売上げでも利益でもなく、全員の顧客と誠心誠意向き合い、谷沢建設に仕事を頼みたい。任せていけば心配ないと云われ誰からも信頼される建設会社になりたい。全社員がこれを共有している」

同社は昭和29年に初代谷澤伊三郎氏が創業、現在はほとんどが建築工事だが、当初は土木工事・上下水道工事を手掛けていた。昭和27年には日本初のし尿処理場を建設、昭和38年に法人化している。昭和54年に父である代目社長（現・会長）

に敏允氏が就任、平成11年には本社が六本木六丁目地区開発計画（六本木ヒルズ）のエリアにあったことから、開発組合副理事を務めた。

正啓社長は、大学卒業後、他企業に就職していたが、10年前の30歳の時に会社に戻り、これまでの公共工事と大手建設会社との仕事を中心とした経営から、補助金を活用した耐震改修工事などの民間工事にも力を注ぐようになった。その後、平成29年に3代目社長に就任し現在に至る。創業73年を迎えた老舗企業である。

正啓社長の掲げる目標や理念に共感した現在の社員は平均年齢40代という。若

い力が溢れ、熱い心を持つ企業である。会社の強みは、どこに出しても恥ずかしくない技術社員だという。

心掛けることが、日本一の建設会社を目指すことであり誇りに思えることだ」と話す。

社員に対して求めるだけではない。信頼し大切にすることも忘れない。

「公共工事については、減少傾向が見えるが、海外からの資本が入ってきて、東京で土地を探し建物を建てるようなマーケットが増えていることを肌で感じていて、現在海外の企業との合併会社をつくる準備をしている。また、老朽化した施設の内装工事や大規模修繕工事も必ず出て来るはずと、リノベーション部を独立させて新会社を設立しているところ。建設業はどんな時代でも無くなることはない。少なくともパイは残るので、そこで着実に本物だけが残っていくはず。コロナ禍だから設備投資等を止めるのではなく、反対に攻めの姿勢で臨む」熱く語る。

キャンパ場で自然との調和、建設の原点ということで人にもつくりの楽しさを体験してもらおう中で、様々な人と語り、建設のことも含めて様々なコミュニケーションを持ってればと考えている。

## 谷沢建設株式会社

代表取締役社長 谷澤 正啓氏

### 『誰からも信頼される企業に』

で着実に歩んできた。「社員一人一人にファンを付けることも大切なこと。」

営業の仕事は営業マンは勿論、現場の技術者も営業の気持ちを持ってお客様に接することが大切だ。一つの現場を誠心誠意努めることで、次の仕事にも繋が

り、現場担当者が名指しでお願いされるような対応を

設立以来、全期黒字、実質無借金経営である。不動産部門としては谷沢産業が別会社としてあるが、六本木ヒルズの床と数棟のビルを所有し、こちらも実質無借金経営という超優良企業である。

2〜3割が官庁工事、7〜8割が民間工事だが、官庁を無理して無理に増やす

今年6月には自然学習事業のジャパンネーチャーズクラブを設立展開している。

自分が変わっていくか、何となくならないか、ことだそうだ。

休日には、好きなゴルフとキャンプで家庭サービスも忘れない。

◆最終学歴 明海大学  
◆血液型 O型

◆プロフィール  
（たにざわ・まさひろ）  
◆生年月日 昭和53年12月20日生まれ  
（41歳）

◆最終学歴 明海大学  
◆血液型 O型

◆最終学歴 明海大学  
◆血液型 O型